

行政視察研修報告書

作 成 者 氏 名	阿部 真二
視察先・視察日	奈良県王寺町・令和6年7月3日 大阪府八尾市・令和6年7月4日
視 察 目 的	議会報コンクールで入賞する優れた編集姿勢を直接学び、 更なる改革に繋げる
研 修 内 容	
両市町ともに事務局が中心となり製作されていたが、住民の声を取り入れ、議会広報として住民と議会をつなぐ広報紙の役割を果たすべく、ユニバーサルデザインを取り入れるほか、見やすいUDフォントを活用し、色の乱用は控え読者に優しい紙面作りを行っていた。紙面改革を目指す我々の紙面作りに非常に役立つ研修となりました。 【奈良県王寺町】 <研修内容のポイント> ・ 町民アンケートより町民は議会に関心がないわけではないことを確認 ・ コンセプトをあなたと議会をつなぐガイドブックとしてリニューアル ・ 欄外に議員の人柄掲載・・・町民アンケートよりテーマを決めている ・ 住民の声だからこそ届く ・ ユニバーサルデザインのススメ ・ 見出しは強調する ・ 行間が空いていると読みやすい ・ 一行が長すぎると読みづらい（30時を超えたらレイアウト調整） ・ 句読点、句点で分けると理解しやすくなる ・ 難しい文言は使わず、簡潔な表現にする ・ UD フォントを活用する ・ 文字、背景色は基本3色までが読みやすい ・ 近接の法則、反復の法則 *村田係長がほぼ制作し、議員は確認を行なっている。 今後、議員が手作りする方向で進めている。 <日出議会だよりへのアドバイス> ・ 良いポイント・・・表紙の第字は良い、機能別消防団の説明は良い ・ アドバイス ↳色を使いすぎ（散漫な印象）日出町のイメージカラーを使うと良い ↳空欄の使い方（余白の使い方）を工夫すると良い ・ キャプションは見たらわかるものではなく内容を表現すると良い ・ 議員の写真は読み手に目を合わせた方が良い ・ 答弁者の記名は必要ない。町民は誰が答えたかは気にしていない ・ 写真を撮るコツ・・・普段の目線ではなく、上からや、下からのアングルで ・ 愛媛県うちこの例を参考にすると良いのでは？	

【大阪府八尾市】

<研修内容のポイント>

- ・ 市民より配布物の削減要望があり市政だよりと議会だよりの合冊版を発刊することで印刷・配布物の削減を実施
- ・ 点字版、声の市議会だよりを作成
- ・ 伝える誌面づくり～伝わる誌面づくりへ
- ・ 市議会×高校生プロジェクトを推進し、高校生の意見を取り込んだ誌面に改革
- ・ 誌面を通した各種団体（保育園、医療機関など）との交流により市民の目につく市議会だよりへ変革
- ・ Xでの投稿は毎日
- ・ 議会広報の一環として議会開会ポスターの発行

研修結果・政策提案事項等

今回の視察研修で議会広報としての役割や、住民に優しい広報紙のあり方を学ぶことができた。現地に行き、直接会話を交わすことにより生じる本音の言葉を聞くことができ距離感の必要性を改めて感じた。

特に面白い取り組みと感じた八尾市の議会開会ポスターの発行は日出町議会でも直ぐに取り入れたいと思います。

この学びをムダにすることなく、今後の『ひじ議会だより』の改革を進めて行きたい。今後とも『ひじ議会だより』のご愛読をお願い致します。

行政視察研修報告書

作成者氏名	池田 淳子
視察先・視察日	奈良県王寺町・大阪府八尾市 令和6年7月3日・4日
視察目的	読みやすく親しまれる議会報づくりに必要な編集方法や編集方針を学ぶため
研修内容	
【奈良県王寺町】 王寺町の議会広報紙は「おうじ議会だより」として発行されており、2023年6月定例会分から紙面を全面リニューアル。「令和5年度町村議会全国広報コンクール」で初めての応募で全国10位に入選。 リニューアルのきっかけは、議会事務局職員の村田氏が町広報紙担当だった際、広報紙を一生懸命作っていたがほとんど読まれていなかったことから、研修を受け、ご自分でも勉強をし、広報紙づくりに注力してきた。その経験を生かし、やはり読まれていなかったおうじ議会だよりもリニューアルすることとした。 リニューアルにあたっては話し合いを行い、方向性を委員で確認。 ○コンセプトを「あなたと議会をつなぐガイドブック」とした。 ○「リニューアルしました！」は上から目線になるのでリニューアル前に住民アンケートを実施 ○全ての人に読んでもらうことは不可能なので、ターゲットを深掘り。 ○プッシュ型広報にすることで、「議会だよりから情報が届く」という信頼関係を築く。 ○難しい言葉は使わず、言い換えて、文は短く。 ○見ればわかるキャプションは書かない 議会だよりの内容は、表紙はフルカラーだが、文中は二色刷りにし濃淡でアクセントをつけている。 編集方針は①町民の参加②脱報告書③読みやすいレイアウト④文字を少なく写真を多く、としている。 議会だより作成には編集ソフトを利用しており、フォントはユニバーサルデザインフォントを使用している。 「ひじ議会だより」を見た村田氏からのアドバイスは ●色を使いすぎ→日出町のブランドカラーを決めた方がいい ●イラストではなく写真を使用した方がいい ●フォントの統一感があった方がいい（例：表紙は表題の毛筆に合わせ『和』の感じで） 日出町では記事内で使用する写真については委員が撮影に出向くこともあるが、フリー素材の写真を活用することも視野に入れていきたいと思う。 【大阪府八尾市】 八尾市の議会広報紙は「やお市議会だより」として発行されているが、「市政だより」と合冊となっていることには衝撃を受けた。 合冊となった経緯は、配布物のサイズ統一を検討するなかで、配布回数を減らせること	

から、平成 11 年 3 月定例会号より合冊での発行となった。

合冊のメリットとしては、見てもらえるようになったが、その反面、市政だよりに埋もれているとのことだった。

編集作業は、おおまかな原稿案を編集方針に基づき事務局で作成している。記事の見出しやレイアウトについての協議や取材・写真撮影は委員が行っている。

また、目が不自由な方のために点字と声の市議会だよりを作成している。(配布先は限定) 広報紙の中身についてもさまざまな工夫が感じられた。

例えば、高校の文化部の発表の場として作品などを掲載。その後、運動部の活動も取り上げ、今では学校から取材依頼がある。取材を通して高校生には議会に関心を持ってもらうことが出来、主権者教育に役立っている。

また、平成 30 年 9 月定例会から議会の会期などを知らせるための議会開会ポスターを制作しているというのも印象的だった。

議会や議員を知ってもらうために、あらゆる手段を模索していきたいと思う。

余談になるが、八尾市の田中議長は、大学 4 年間を大分で過ごしたとのこととても親しみを感じた。

研修結果・政策提案事項等

視察研修に行って毎回感じるのは、「いかに多くの町民の方に議会だよりを手にとってもらえるか」のヒントがあるということ。

それは、表紙にしても中身にしても、町民の方が「今回はどんなことが載っているのか」「今回の表紙は誰だろう」「誰か知っている人が載っているだろうか」と楽しみにしてもらえる議会だよりを目指したい。

現在のひじ議会だよりは、年 4 回発行しているが、3 月議会の内容は当初予算、9 月議会の内容は決算、というように、毎年ワンパターン化してしまっている。

定例会の報告も基本としつつ、掲載内容を深掘りし、もっと住民参加ができる議会だよりにしていきたいと思う。

両市町とも編集ソフトを活用し、事務局職員が制作しているが、日出町はレイアウトも印刷業者に依頼していることから、一度レイアウトを決めると打ち合わせに時間を要し、大きな変更は難しいように思う。また、印刷業者は当然入札のため、現業者が毎年担当してもらえとは限らない。だとしたら、日出町も編集ソフトを活用し、柔軟なレイアウト変更が行えるようにしてもいいのではないかと思う。

また、視察研修で習得した内容を「ひじ議会だより」にどう取り込むのか、視察研修後に別途委員会を開催し、協議すべきと考える。

行政視察研修報告書

作 成 者 氏 名	衛藤 清隆
視察先・視察日	奈良県王寺町・大阪府八尾市 令和 6 年 7 月 3 日・4 日
視 察 目 的	優れた議会だより編集方針を 学び更なる改革につなげる為
研 修 内 容	
奈良県 王寺町 令和 5 年 8 月にリニューアルした議会だより 146 号が町村議会広報全国コンクールで 全国コンクールで全国 10 位になる、王寺町議会だよりコンセプトとして「あなたと議会をつなぐガイドブック」の編集方針 ① 町民参加で住民や事業者、町にかかわるすべての人々が紙面に登場し、重要な案件では議会と町民それぞれの視点を掲載し声が見える化する ② 報告書ではなく議会に関心をもってもらう為のツールではすべての審議結果を均等に掲載するのではなく、町民の関心が高いと思われる議案等の審議経過がわかるよう優先順位にメリハリをつけて掲載する ③ 読みやすいレイアウトではキャッチャーな表紙、議会を身近に感じてもらう巻頭企画、整理された情報近所の人が載っている親近感で紙面を構成して議会広報として住民と議会をつなぐ広報誌の役割を果たしている又、リニューアルしてからは情報が見つけやすくなり、目にも優しく何度も開いて見たくなる紙面になったとか議会だよりとは思えない程、親しみやすくなり町民に寄り添った広報の取り組みが素晴らしい等の意見が寄せられているとの説明がありました 大阪府八尾市 八尾市は大阪府の中河内地域に位置する人口 260000 人で奈良県に接した町です 令和 4 年 9 月定例会号(317 号)が第 18 回中核市議会報コンクールで審査員特別賞を受賞し、審査員から市民との距離を縮めようとする積極的な姿勢がかんじられる等の好評を得ている また、目の不自由な方のために「声の市議会だより」点字市議会だよりを発行している また、平成 11 年 3 月定例会号より市政だよりとの合冊での発行を行っている 編集方針については、おおまかな原稿案は方針に基づき事務局で作成している ① 「伝える紙面づくりから伝わる紙面づくり」へわかりやすい紙面を目指す 議会に関心を持ってもらう為に議会の他の広報媒体につなぐと共に会議録検索や映像配信等の媒体を活用してもらえよう紙面づくりを行う ③ 議会に興味、関心を持ってもらえる記事等、議会からの意欲的な情報発信が感じられる紙面づくりを行う ④ 文字、空間、写真、イラスト、図などバランスのとれた紙面づくりを行っている 日出町は議員みずからが広報づくりをしているのに対し王子町も八尾市も、事務局員が中心になって制作している	

研修結果・政策提案事項等

先進地研修で感じることは、どこの研修地でも基本的にはいかに多くの町民に読んでもらえる編集づくりをするかだと思います

今回の王寺町、八尾市も編集方針では住民参加の広報づくりだと感じた

編集内容についても今回の研修で得たことを参考にしていきたい

日出町は議員手作りの紙面づくりなので更に研究し誌面づくり向上に努めていきたい

その意味でも今後も先進地研修は必要だと考えます

行政視察研修報告書

作 成 者 氏 名	豊岡 健太
視察先・視察日	奈良県王寺町 令和6年7月3日（水） 大阪府八尾市 令和6年7月4日（木）
視 察 目 的	「あなたと議会をつなぐガイドブック」の編集方針について（王子町） 市政だよりとの合作の取り組み等について（八尾市）
研 修 内 容	
1. 奈良県王寺町 「あなたと議会をつなぐガイドブック」をコンセプトに、町民に手に取ってもらい、読んでもらい、信頼される議会だよりを作るという強い意志が感じられた。 2023年5月発行の第145号までは写真が少なく文字ばかりの議会だよりだったが、町報担当の職員が議会事務局へ出向となり、第146号から参画したとのことだが、正に一新という言葉がふさわしいほど、読みやすく、分かりやすい言葉を用い、町民へ議会の内容を伝えている広報紙に様変わりした。 コンクールでいきなり全国10位に入賞するという快挙を遂げた、事務局の担当者に対し、日出町の議会だよりについてアドバイスを求めたところ、 ① 注釈でももう少し説明があった方が良いのでは。 ② 前頁フルカラーを採用しているが、2色刷りでも十分見やすく作れるのでは。 ③ 日出町のブランドカラーを決めては。 ④ 余白の使い方に工夫を。 ⑤ 文字のフォントは統一した方が見やすいのでは。 といった様々な意見を頂いた。 頂いたアドバイスのうち、すぐに取り入れられるものもあるので、次号からの制作の参考にしたい。 2. 大阪府八尾市 八尾市の市議会だよりは、「伝える誌面づくり」から「伝える誌面づくり」へ」を基本方針に、文字・写真・イラスト・図などのバランスがとれた誌面づくりを行っている。 誌面の構成や写真と文字のバランスは、日出町の議会だよりとそこまで変わらないと感じたが、年度によってユニークな取り組みをしており、「市議会×高校生プロジェクト」と銘打って、表紙に市内の全高校の部活の写真や活動写真を採用し、生徒へのインタビューを記事に載せ、若い世代にも市議会を身近に感じてもらう工夫をしていた。また、令和2年度3年度には新型コロナウイルスの中、がんばっている市民に焦点をあて、公募で市民の写真を載せる企画も行っていた。 その他にも、XやFacebookといったSNSを積極的に活用しており、議会の見える化の促進に注力していた。 何といっても驚いたのは、市政だよりと市議会だよりが一冊の誌面になっていることだ。市民への配布回数を減らす目的で、市政だよりの中に議会だよりが組み込まれており、斬	

新な取り組みと感じた。コストダウンにもつながるので、今後の参考にしたい。

また、面白い取り組みとして、平成 30 年 9 月議会から市民に関心を持ってもらう目的で、「議会開会ポスター」を作成し、市役所内や駅構内に掲載し、いつからいつまで議会が開かれるというアピールを行っていた。そんなに予算はかかっていないようなので、日出町でもやってみる価値はあるのでは、と感じた。

双方の誌面づくりに対して感じたのは、事務局の担当者が中心になって制作しているような印象を受けた。日出町のように議員と事務局が一体となって制作している自治体は比較的少ないのではとも感じた。

いい誌面づくりを目指すという思いを議員・事務局・制作会社全員が共有し取り組んでいけば、読者も増え、町民の方々が議会を身近に感じてもらえると思う。そんな議会だよりをこれからも作っていききたい。

研修結果・政策提案事項等

我々が制作している議会だよりは、いかに町民の方々に手に取ってもらえるかを考えて毎回作っているが、まだまだ足りない部分があると感じる。コンクールで受賞する自治体の議会だよりは本当に参考になるし、今後も先進地への視察は有効だと考える。

議会だよりを通じて、議会や議員に対してより一層信頼を得るべく、様々なアイデアを紙面に盛り込んでいきたい。

現在「町民インタビュー」や「ようこそ日出町へ」において町民の方が紙面に掲載されるように変えてきたが、文字数は少なくてもよいので、もっと多くの町民を写真入りで掲載するようにすれば、もっと議会だよりを身近に感じてもらえると考えているので、委員会において提案していきたい。

行政視察研修報告書（個人）

作成者氏名	多田 利浩
視察先・視察日	①奈良県北葛城郡王寺町 令和6年7月3日（水） ②大阪府八尾市 令和6年7月4日（木）
視 察 目 的	①議会報の編集について（奈良県北葛城郡王寺町） ②議会報の編集について（大阪府八尾市）
所	感
①奈良県北葛城郡王寺町 ・王寺町は人口 24,000 人弱、面積は 7 キロ㎡（日出町のおよそ 10 分の 1）、一般会計予算は 122 億円。アクセスは JR 利用で大阪駅から 28 分・天王寺から 18 分・奈良から 14 分。アクセスの良いことから大阪のベッドタウンとして知られている。 ・議会だより「おうじ議会だより」は令和 8（2023）年にリニューアル。146 号が、第 38 回町村議会広報全国コンクールに初出場で入選（全国 10 位）に（奈良県で初入選）。 「おうじ議会だより」は「あなたと議会をつなぐガイドブック」という考えでリニューアルを行った。考えの基になったのは、1、「トーン&マナー」、2、「プッシュ型とプル型の使い分け」。 1、「トーン&マナー（トンマナ）」トーンはデザインやイメージの一貫性や統一性。マナーはこの一貫性やイメージのルールや基準のこと。デザインの方向性を決めることで、議会だよりのイメージの一貫性や統一性を保つためのルールを作る。 2、「プッシュ型とプル型の使い分け」プッシュ型は不特定多数に向けて一斉に情報提供ができることが利点。また、プル型は即効性には欠けるが、自然な形で情報が伝わることに利点。 ・リニューアル後、LINE 登録者（王寺町は 1 万人）によるクロスメディア（連携）で本会議の動画視聴数が 6 倍にアップ。 ・編集に際して具体的な工夫は・・・ ●ターゲットとコンセプトを決める（すべての人がターゲットではない。基本的な考えを貫く。） ●「町民参加」（議会の情報を提供するだけの一方通行ではない。） ●脱・報告書（関心度が高い案件を優先してメリハリをつける。議員の人柄がわかるコメントを掲載） ●声が見える化（文字だけでなく、図や写真を多用する。） ●読みやすいレイアウト（世代を問わず興味を持ってもらうためにユニバーサルデザインの導入→余白の上手な利用。QRコードで詳しい説明や動画へ導入。議会を身近に感じてもらう巻頭企画。近所の人々が載っている親近感。） ●言い換え例の提示（くどい言い回しの文面を簡略化。） ●UD[ユニバーサルデザイン]フォントの使用（用途でフォントの使い分け。アイキャッチと見出しで紙面に読者を引き寄せる効果。色の濃淡の使い分けで視認性を高める。）	

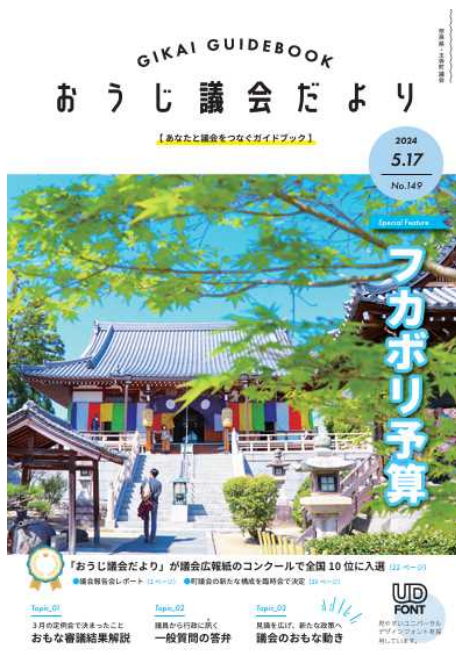
- 可読性を高める（行間を空ける。30文字までにして長い文章はやめる。）
- アドビソフトの活用（編集作業の短時間化へ。）
- 編集の最終は議会事務局 村田氏が手直し（一貫性を持たせるため。担当者が交代しても、同様の編集ができる工夫が必要。）



議会事務局 村田氏が説明



王寺町庁舎



おうじ議会だより 最新号



王寺議会と意見交換中

②大阪府八尾市

・八尾市は人口 260,000 人弱、面積は 41 キロ㎡(日出町のおよそ 5 分の 3)、一般会計予算は 1170 億円。アクセスは JR や私鉄利用で新大阪駅から 30 分・天王寺から 12 分・大阪難波から 17 分。「そこそこ便利な都会」というイメージのまち。身近に自然を感じることができる。モノづくりが盛んで(歯ブラシの製造は有名)、職住近在のまちでもある。

・議会だより「やお市議会だより」は、市政だより「やお市政だより～Yao」と合冊で発行している。PDF ファイルやスマートフォン用アプリ「マチイロ」でも配信(日出町でも導入。「広報ひじ」はマチイロで見ることができる。)。目の不自由な市民のために「声の市

議会だより」「点字の市議会だより」も発行している。「やお市政だより」との合冊は、市民に見てもらえる機会がふえたという利点の反面、「やお市議会だより」が「やお市政だより」に埋もれてしまっている、との声もあるようだ。

・編集に際して具体的な工夫は・・・

- 編集ソフトの積極的な利用（アドビソフト）
- 議会だよりのフォーマット化（紙面に統一感を持たせる。担当者が交代しても、編集をスムーズに引き継ぐことができる。）
- A I 速記ソフトの活用（内容は完全ではないが、スグに議事録が作成できる。外注の議事録よりも早い）
- UD(ユニバーサルデザイン)フォントは【モリサワ・フォント】を利用している（年間の使用料は5万円程度）

・その他の取り組み・・・

- 議会への関心度をアップするために
 - A)「八尾まめっこ会議」小学生が議場で意見発表をおこない、議員との対話や議会施設の見学で議会への理解と関心を高めた。
 - B) 18歳選挙権になったことで、新たに有権者となった学生に選挙制度と議会制民主主義への理解を深めことを目的に「やお未来会議」を開催した。これは「主権者教育」と言われている。若者層の政治的なリテラシー(判断能力)や政治への参加意識を育む必要性が注目されているので、議会への理解を求めることは重要だと感じる。



八尾議会事務局と意見交換中



やお市議会だより 最新号



市議会議場



市庁舎ロビー

調査研究・政策提案事項

王寺町と八尾市の視察を通して、日出町「議会だより」「議会」として改善すべき点の提案事項。

- ①脱・報告書。「町民インタビュー」のコーナーを始めたが、町民と議会の橋渡しになるような、一方通行の報告書ではなく双方向のやりとりがある紙面作りが求められる。
- ②一般質問用のフォーマットを作成する。毎号、ルールを守らない原稿が見受けられ、そのたびに編集委員が訂正を強いられる。口頭での指示ではなく、フォーマットを作成することで、編集作業の時間短縮につなげる。
- ③年間の特集内容を決める。例えば、1月末発行～議員の今年の抱負／4月末発行～当初予算／7月末発行～町民との意見交換／10月末発行～一般会計決算 など。
- ④ユニバーサルデザインフォントの採用でさらに見やすい紙面へ。
- ⑤編集ソフトの利用で編集作業の時間短縮へ。
- ⑥閉会中の編集委員会開催。次号での編集について早めに打合せをおこなう。

以上